

二〇一三年 九月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

ただ誹^{そし}られるだけの人、またただ褒^ほめられるだけの人、過去にもいかなかったし、未来にもいないであろう、現在にもいない。

『法句経』

私たちは様々な人との関係の中で生きています。

どんな人とも仲良く付き合っていくことができたいのですが、時には「仲良くなれないなあ」「苦手だなあ」と感じる人もいるかもしれません。

ところが、その「いやな人」が他の人にとっては「いい人」だと言われていた、という経験をした人はいませんか。つまり、いやな人というのは、自分にとっていやな人のことであって、誰にとってもいやな人ではないということなのです。同様に、いい人も自分にとっていい人というのであって、誰にとってもいい人だとは限りません。

自分の都合によって人をいい人、いやな人と勝手に判断してしまいがちな私達。今月の言葉は、「ただ非難されるようないやな人も、ただほめたたえられるだけのいい人もいない。人を勝手に判断してはならない」と語りかけているように思われます。人を一面的にしか見ることでできない自分のあり方を今一度見つめ直してみたいものです。

今月の聖語

一人であって 一人ではないのです

コ サ ミ ュ ン
高史明

「大人になるってどういうことでしょうか」

おもいやりをもつことができる。気遣いができる。二十歳になる。……。色々な答えが返ってきたのですが、「自立」もその内の一つに数えられるでしょう。

自立の意味を調べてみると、「他の援助や支配を受けず、自分の力で判断したり身を立てたりすること」（『広辞苑』）とあります。

中学生になり、主體的に判断して生きようとすることは大切です。が、誰の援助もなく一人で生きられると思ひ込み、周りと無関係な態度をとるのは自立ではなく「孤立」なのです。

かといって、「他人まかせ」に生きることが、自立とは程遠いことです。手段としてしか相手を見ず、一方的で自己中心的な立場だと言えます。

一方、「お世話さま」とか「おかげさま」という言葉がありますが、それらは「人はお互いに世話にならずには生きていけない」という含みがあるように思われます。お世話になるが、お世話もするという双方向的な大人の関係の中で、発せられる言葉だといえるでしょう。

自立であって、孤立ではない。お世話さまであって、他人まかせではない。それが、「一人であって、一人ではない」の意味なのではないでしょうか。

台掌

宗教教育係